

2018年度後期 学群教育改善計画

学群(学部)名	事業構想学群
学群(学部)長名	風見 正三

1-(1). 授業評価アンケート結果を踏まえ、学群で改善すべき重点課題とその理由について3つ挙げてください。

※なお、前回から継続して同様の課題を記載する場合は、冒頭に「継続」と記載してください。

①	課題	授業計画や事前・事後の学習方法の成果測定について検討する必要がある。
	理由	事前・事後の学習方法の改善を進めてきたが、その評価手法の検討が必要。
②	課題	実践知を伝授するための外部講師の効果や評価を行う必要がある。
	理由	授業計画や到達目標を踏まえた外部講師の貢献度や導入効果の測定が必要。
③	課題	インタラクティブな学習支援システムの到達度の測定が必要である。
	理由	Moodle や Moca 等の学習支援・評価システムの習熟度とその効果の測定が必要。

1-(2). 上記のそれぞれの課題を解決するための取組と、それらの取組を具体的にどのように進めていくか書いてください。

①	学類会議にて、各教科の事前・事後の学習の改善方法と効果を分析し、教員連絡会議で情報共有を行っていく。
②	学類会議にて、学類ごとの外部講師の導入効果を分析し、学類毎に外部講師の導入戦略を検討していく。
③	学群の SSC-WG が主体となり、インタラクティブな学習支援システムの習熟度やその効果を測定し、マイクロ FD や教員連絡会議にて情報共有を進めていく。

2-(1). 各科目の授業改善計画から、授業実施・授業改善の良い事例を挙げてください。

- ・講義の構成を可視化し、学習計画が進むよう講義運営を進めていく。
- ・事前学習を進めるため、講義資料を事前に共有し理解するよう進めていく。
- ・理論の習得だけでなく、演習や対話形式の議論を増やし、双方向の講義運営を進めていく。

2-(2). 上記の事例を学群の中でどのように共有して教育改善につなげていくか書いてください。

- ・講義の全体像を学習前から理解し、体系的な学習計画が立てられるようなシラバスや講義運営を構築し、教員連絡会議等で情報共有を行うとともに、各学類の特徴も踏まえた定式化を進めていく。
- ・講義の中で、実践的な知が習得できるよう、双方向・対話型の講義方式を学類毎に共有し実践していく。